
食肉科研/行政情報等発信サービス

No.188 2019/8/13

1 「豚コレラの疫学調査に係る中間とりまとめ」を公表

8月9日、農林水産省は、「第9回拡大豚コレラ疫学調査チーム検討会」を持ち回りにより開催し、これまで実施してきた豚コレラ発生に伴う疫学調査の結果について議論を行い、この度、これらの結果を「中間とりまとめ」としてまとめ、公表した。

中間とりまとめでは、次のように報告されている。

- 2018年の国内発生例で分離されたウイルスは、中国又はその周辺国から侵入したウイルスであると推定される、
- 各発生農場のウイルス侵入時期を推定した結果、最初にウイルスに感染した農場は、1例目の発生農場と考えられる。「海外から直接1例目の発生農場にウイルスが侵入した可能性」よりも、「海外からイノシシ群にウイルスが侵入し、それが1例目の発生農場に伝播した可能性」の方が高い。
- 発生事例には農場からの豚の移動により関連農場で発生したケースもあるが、28例中24例が感染野生イノシシからであることが判明。
- 提言として、防護柵の設置、防護柵周辺への消石灰の散布の徹底などの野生動物対策、適切な洗浄・消毒、毎日の健康観察と早期通報、適切な水の使用などの徹底を求める。
- 29例目以降についても検討し、感染豚や感染野生イノシシのウイルスの動態や免疫、発生農場と非発生農場の違いなどを検証する。

<http://www.maff.go.jp/j/press/syouan/douei/190808.html>